

## 「CERT-SBL ワークショップ～コミュニティベースによる防災・減災の推進に向けて～」を 開催しました(2016/4/21)

テーマ：コミュニティ防災、米国 CERT、仙台市防災リーダー（SBL）  
場所：災害科学国際研究所 1 階会議・セミナー室

2016 年 4 月 21 日、災害科学国際研究所プロジェクト連携研究センターのひとつである防災教育国際協働センターの主催により、「CERT-SBL ワークショップ～コミュニティベースによる防災・減災の推進に向けて～」と題するワークショップが開催されました。CERT とは、Community Emergency Response Team の略称（コミュニティ緊急対応チーム）で米国のコミュニティ防災活動のひとつに位置づけられています。ワークショップには、消防、自主防災組織、教育等の関係者や仙台市地域防災リーダー（Sendai Bosai Leader: SBL）、所内メンバーなど約30名が参加しました。

本ワークショップは、米国の CERT と仙台市のオリジナルのコミュニティ防災プログラムである SBL の現状と課題を共有し、今後の地域防災力の高度化に資することを目的に開催されました。また、本ワークショップの開催に先立ち、2016 年 3 月に佐藤健教授、桜井愛子准教授(情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野)が小田隆史特任准教授（宮城教育大学）、村山良之教授（山形大学）とともに米国バークレー市消防局を訪問し、CERT プログラム・マネージャーである Khin Chin 氏との情報交流の機会を持つことができたことも本ワークショップの契機となっています。

ワークショップでは、佐藤健教授・防災教育国際協働センター長による趣旨説明に始まり、コミュニティ防災の実践者ならびに研修者から以下、6 件の話題提供、総合討論が行われました。

★印は災害科学国際研究所防災教育国際協働センターのメンバー

1. 佐藤 健★「この30年のコミュニティ防災の歩み」
2. 那須義和（仙台市減災推進課・係長）「4 年間での SBL 養成と今後の課題」
3. 菅井 茂（仙台市地域防災リーダー、南材地区町内会連合会・会長）「SBL の活動事例報告：平成27年度八軒中学校区総合防災訓練について－SBL と中学生の活躍」
4. 小田隆史★（宮城教育大学附属防災教育未来づくり総合研究センター・特任准教授）「米国都市コミュニティの防災がバンスーCERT を必要とする都市社会地理を考える」
5. 桜井愛子★（情報管理・社会連携部門 准教授・防災教育国際協働センター副センター長）「コミュニティ防災拡充に向けたアプローチの日米比較：バークレー市 CERT と仙台市防災リーダー（SBL）を中心に」
6. 村山良之★（山形大学大学院教職大学院・教授）「コミュニティ防災と学校防災との連携の現状と課題」

ワークショップでは、2012 年度の開始以降 2015 年度までに 600 名を養成した SBL プログラムの今後の拡充に向けた方向性、既存の自主防災組織の中での女性や若い世代のリーダーの活用、地域における SBL と防災士の位置づけ、お祭りや楽しいイベントを通じ子どもや地域を巻き込みながら防災の要素を加えていくことの重要性、等について活発な意見交換が行われました。ワークショップは、奥村誠副所長・教授★（人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野）の「これからの日本の都市型社会では、はじめからコミュニティがある、コミュニティのリーダーがいることを前提とするのではなく、アメリカのように地縁やコミュニティのない場所に個々にリーダーを育成しながらどうコミュニティを作り出すといったアプローチも必要で、SBL は防災リーダーだけでなく地域リーダーを育成するという意味も持っていることを再確認した」との閉会挨拶で締めくくられました。

文責：桜井愛子・佐藤 健（情報管理・社会連携部門）、奥村誠（人間・社会対応研究部門）



4月21日のワークショップ会場の様子



米国カリフォルニア州バークレー市消防局を訪問  
CERTプログラムマネージャーMr. Khin Chin との意見交換の様子  
(2016年3月28日撮影)